

正太寺通信

第3号

主張

「継続こそが力なり」

副住職の正哲です。五月に三重県へ人権学習へ行ってきました。曹洞宗では、

一九七九年に開催された第三回世界宗教者平和会議において、時の宗務総長が「日本に部落問題はない」などと再三にわたって差別発言をして大問題になって以来、部落差別を始めとした各種の差別事象・人権問題について人権学習を重ねています。

地域によっては過去の差別事象を洗い出すことで、新たな差別が生まれかねないという「寝た子を起こすな」風潮も強いのですが、放つておいても部落差別に限らず新たな差別事象は発生していきます。そんな社会の中で、目の前に差別があることに気づかぬことがないように、また知らず知らずに差別する側にならないように、何回も何回も学習を重ねています。同じテ

ーマが何年も続くときすがに閉口してしまいますが。(テーマは宗務庁が決定するので口出しの機会がありません)

この世は常に変化していますから、いづどこに新しいタイプの差別・人権問題が発生するかわかりません。人の心の中に居座る差別心、それがわずかに働いただけのこと、社会全体に影響を及ぼす大きな問題に発展する可能性もあるのです。我々僧侶も、自分の心を常に意識し、注意を払っていなければ、いつ差別心を働かせてしまうかわかりません。自分が当事者になり、その後の人権学習の題材になってしまうようでは困ります。

この、常に意識しているという作業は、修行そのものです。自分の心がどのようになっているか、あなたは知っていますか？どんな時に喜び、怒り、悲しみ、笑っているか、知っていますか？その時その時に心が

どう働いているか、注意を払っていますか？怒っているときに、自分は怒っていると気づいていますか？悲しいときに、自分は今悲しんでいると気づいていますか？自分の心のありようを知ること、とても大切なことです。ありようを知るには、意識し続けるしかありません。意識していない間は、自分の心がどう働いているか、分かっているよ

うで分かっているのだから。継続は力なりと言いますが、せっかく意識し続けることを継続してきても、やめてしまえば力を発揮できなくなりません。継続こそが、力なのです。今回の人権学習で、そのことを改めて強く認識させられました。これはなにも人権問題に限った話ではなく、勉強にも、仕事にも、あらゆる事においてはあります。

お葬式って？

灌頂水 連載◎

剃髪、懺悔に続き、灌頂水の儀式です。懺悔文をお唱え終わった後に御導師様が器を手に取り、なにやらゴニョゴニョとお唱えしながら器の中身を棺に向かつて降り注ぎます。これが、灌頂水の儀式です。

降り注いでいるのは仏血水というものです。これはお釈迦様の頭の頂点にあつたものであり、それが脈々と受け継がれてきて、御導師様の頭の頂点に宿っています。

その仏血水を、御導師様の頭の頂点から水の入った器に移し、それからお唱えをしながら故人の頭の頂点に注ぎますこのことを灌頂と言います。実際には時間の都合もあり、棺の上から降り注ぐのですが、この儀式により、故人の頭の頂点にも仏血水が宿ることになるのです。

御導師様と同じように、歴代の祖師方と同じように、そしてお釈迦様と同じように、故人にも仏血水が

宿つたのです。この仏血水を頂くことも、出家するための大切な儀式です。御導師様もまた、出家して僧侶になる時の儀式によつて、お師匠様から頂いていきます。ひとつひとつ儀式を着実にいき、故人は僧侶となつていくのです。

カジュアルコンサート

今年も聴けませう！

※開催日が変更となりました。ご注意ください。昨年十月に開催されたカジュアルコンサートが今年も開催されることになりました。アンサンブル フェスティナ・レンテの皆さんに、正太寺本堂でさまざまな曲を披露していただきます。ご家族ご友人お誘い合わせの上ぜひお越しください。十月十四日午後七時開演。正太寺本堂にて。入場無料！お問い合わせは主催のカジュアルコンサート (TEL 〇五三一五七六一一四八三) まで。

発行人 曹洞宗宇津山正太寺 住職 穴水春男 編集人 副住職 穴水正哲 静岡県湖西市入出八〇〇番地 電話〇五三一五七八一〇〇四九 http://www.shotaiji.or.jp/ info@shotaiji.or.jp